

## 町内河川 調査その①

毎年のことながら、この季節は雨、雨、雨。

でも行って来ましたよ、この春雨の中、現在手がけている『西原の自然』の水生生物を調査するため、琉大理学部の高喜田先生・学生さんと町内六地点へ。

まず、サンマの切り身をエサに、わなカゴを仕掛けます。地点は池田ダムと小波津川河口付近。小波津川河口は養豚場の異臭が鼻につき「こんな所に生物が？」と半信半疑のまま次の地点へ移動。

字津花波都バレス下のコンクリート水路や貯水池では、貝やトンボの幼虫（ヤゴ）数種類とゲンゴロウが採取されました。

お次は内間川上流へ。コンクリートの川をどんだんさかのぼっていくと、所々にコンクリート側面やせきがみられるものの、自然な川の流れが残っています。張り切って川底に網を入れると、何やら魚の姿。「なに？メダカ？」とみると、グッピーでした。グッピーというと、水質汚染に強い外来種です。ここでは自然の川の状態が残されているながら、生物はほとんど見られませんでした。

気落ちしながら次の調査地・桃原のワクガール・シルガール（共に方言名）へと向かいました。ここでも川の上流はコンクリートの三面張りです。「西原ってすばらしく河川工事の行き届いた町なんだね」とみんなで感心。

ふらつと近くにあるワクガール（井戸）をのそくと、オオウナギを発見！

そこへキビ刈りに来ていた玉那覇善永さんが「役場から？今日は日曜日じゃないのー」といしながら、以前はオオウナギはもちろん田ウナギやモズク方二、ミナミテナガエビもたくさんいたこと、現在は上流のゴルフ場や家庭等の排水で、川が汚染され、エビやカニの姿はみられなくなつたことなどを話してくれました。

「西原にはエビやカニはもういないの？」先ほど仕掛けたわなカゴが気になります。はたして、どんな生物の姿が…。その結果は次回につづく。



自然な流れの残る内間川上流